

# пейфон なるるほど新聞

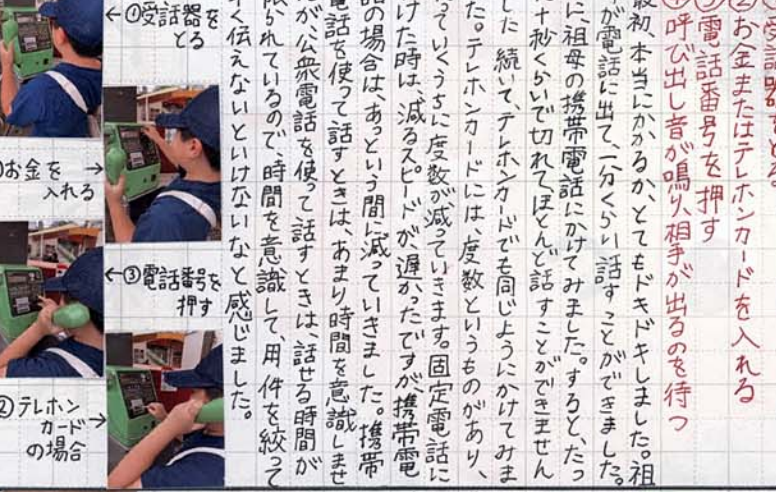
松江市  
 小原小学校  
 米田 健  
 6年

ばくの家の近くのスーパーの前には、公衆電話が  
 あります。これまで気にはなっていたが使ったことがあ  
 りませんでした。公衆電話の数が今後減っていくとい  
 うニュースや電気通信事業者の通信障害の影響で公  
 衆電話を使っている人を見て、公衆電話に興味を持  
 ったので調べてみることにしました。

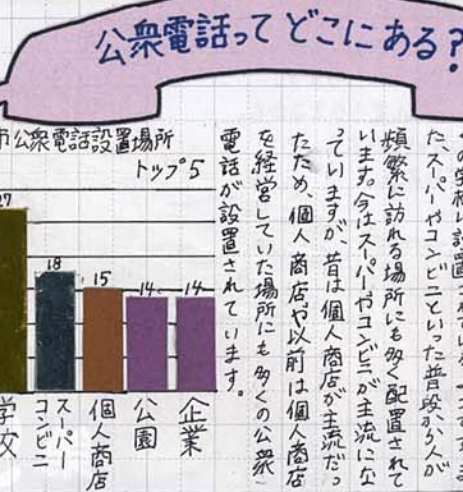
家にあったテレホンカードと十円玉を持って、いざ、  
 公衆電話へ！ まずは、十円玉で家の固定電話に  
 かけてみることにしました。次の手順でかけます。

- ① 受話器をとる
- ② お金またはテレホンカードを入れる
- ③ 電話番号を押す
- ④ 呼び出し音が鳴り相手が出るのを待つ

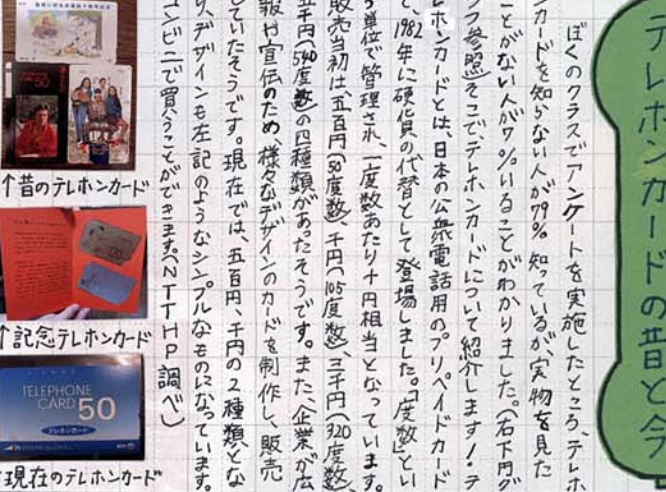
最初に本音にかかるともドキドキしました。祖  
 母が電話に出て、一分くらい話すとかができました。  
 次に祖母の携帯電話にかけてみました。すると、た  
 った十秒くらいで切れてほとんど話すことができませ  
 ぬ。続いて、テレホンカードでも同じようにかけてみま  
 した。テレホンカードには、度数というものがあり、  
 使っていくうちに度数が減っていきます。固定電話に  
 かけた時は、減るスピードが遅かったですが携帯電話  
 の場合は、あっという間に減っていききました。携帯  
 電話を使って話すときは、あまり時間を意識しませ  
 ぬが、公衆電話を使って話すときは、話せる時間が  
 限られているので、時間を意識して、用件を絞って  
 早く伝えたいといけないう感じになりました。



多くの住んでいる松江市  
 に、公衆電話がどこに設置  
 されているのかを調べました。  
 (NTHP調べ) 松江市には  
 204か所に設置されており、最  
 も多かったのは学校、次いで、ス  
 ーパー、コンビニといった普及  
 率が高い場所にも多く配置され  
 ています。個人商店が主流にな  
 っているため、個人商店や以前  
 は個人商店を経営していた場所  
 にも多くの公衆電話が設置され  
 ています。

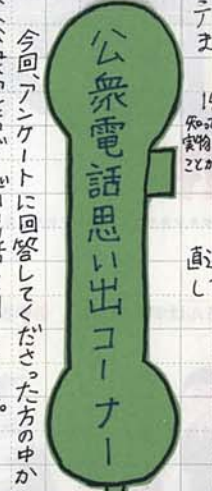
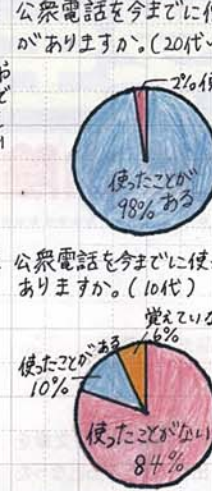


多くのクラスでアンケートを実施したところ、テレホ  
 ンカードを知らない人が79%、知っているが実物を見た  
 ことがない人が7%いることがわかりました。(右下用  
 紙参照) そこで、テレホンカードについて紹介しまし  
 ます。テレホンカードとは、日本の公衆電話用のプリペイドカード  
 で、1982年に硬貨の代替として登場しました。度数とい  
 う単位で管理され、一度あたり十円相当となっておりま  
 す。販売当初は五百円、千円、千円(初年度)  
 五千円、5000円、四種類があったそうです。また、企業、公  
 報、宣伝のための様々なデザインのカードも制作し、販売  
 していたそうです。現在では、五百円、千円の二種類とな  
 り、デザインも左記のようなシンプルなものになっていま  
 す。(コンビニで買えることができます。NTHP調べ)



みんな使ったことある？

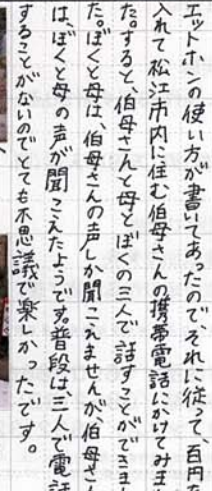
多くのクラスメイトや学校の先生方、知り合いの方、合  
 わせて96名の方に公衆電話に関するアンケートを取りました。  
 20代から60代では、今までに公衆電話を使ったことがない  
 割合は、生半かたからスマートフォンが当たり前の世代なので、ほ  
 んどの方が使ったことがないようです。また、今までに公衆電  
 話を使ったことがあると回答した人でも、直近一年の利用を  
 尋ねたところ、使ったことがあると回答した人はわずか3%でし  
 た。携帯電話が生活必需品になっていることもあり、年代を問わず公衆  
 電話を利用する人が少なくなっているのが現状のようです。



今回、アンケートに回答してくださった方の中か  
 ら、公衆電話で思いい出話を伺いました。  
 ・学校の公衆電話から家にかけて忘れた物をこっそり  
 届けてもらっていました。(20代)  
 ・高校の合格発表を親に見に行ってもうかい、その結果を  
 早く知りたくて、中学校の公衆電話から家にとても緊急  
 張しかかかったことが今も印象に残っています。(30代)  
 ・当時、ポケベルが流行っていて、休通時間になるとポ  
 ケベルにメッセージを送ろうと高校の公衆電話に行列  
 ができていました。(40代)  
 ・仕事でポケベルにメッセージを送るためによく公衆電  
 話を利用していました。(60代)

受話器が二つある電話!?

公衆電話について調べているうちに受話器が二つつ  
 いていて、三者通話ができる「デュエットホン」という公衆電話が  
 あるということを知りました。これはNTHP周年を記念し  
 て制作されたようですが、現在は、日本でも数台しか存在して  
 いないそうです。そして、その一台が津和野町の乙女峠にある  
 マリア聖堂の敷地内に設置されていることを知り、実際に  
 見に行きました。マリア聖堂は山の下にある駐車場から  
 五分程度、山道を登ったところにあります。とても急な坂で、ア  
 ンテナが壊れて、聖堂の近くにデュエットホンがありました。お  
 まり利用者がいないよう、電話ボックス内にたくさんセミ  
 の死骸がいて、怖かったです。デュエットホンの上には、デュ  
 エットホンの使い方が書いてあったので、それに従って、百円を  
 入れて松江市内に住む伯母さんの携帯電話にかけてみまし  
 た。すると、伯母さんと母とぼくの三人で話すことができました。  
 ぼくと母は、伯母さんの声しか聞かれません。伯母さん  
 は、ぼくと母の声が聞こえたよう、兄弟は三人で電話  
 することがないので、とても不思議で楽しかったです。



今回、公衆電話について調べたり、実際に使ってみたり、  
 珍しい公衆電話を探したり、いろいろなことが、今まで使  
 ったことがなかった公衆電話について色々知ることが  
 でき、とても楽しかったです。今後、設置台数が減る  
 ことで、災害時に困らないか不安ですが、日ごろから使  
 いたく、設置場所(家族の連絡先など)を復習しておく  
 ことで、災害時でも困らないようにしたいと思えます。み  
 なさんも身近にある公衆電話を使ってみてください。



編集後記